

二大政党制に懸けた20年

中道改革連合へ入党せず 無所属での挑戦を決意した背景

2月8日に行われた衆議院議員選挙の直前に、立憲民主党は、公明党と新党、中道改革連合を結党しました。ほとんどの立憲議員が中道に入党して選挙に臨む中、茨城6区の青山大人氏は、ただ一人、無所属で出馬しました。

圧倒的不利な状況の中、10万4844票を獲得したものの、自民党候補者に約2500票届かず、惜敗。敗れはしたものの、政治家としての信念を貫いたその姿勢は、全国の有権者の心を動かしました。その決断に籠められた思いを伺いました。

新党の立ち上げは有権者が求め
自分がしたい政治かと自問

——年明け1月12日に開催した、本誌の
創刊50周年記念祝賀会に出席下さり、
「今、解散報道が出ています」と挨拶の

中では言われていました。そこから怒涛
の日々でしたね。

青山 振り返ると、1月9日に、読売
新聞が「衆議院解散」と報じました。そ
の後、週末を挟んで、1月14日に、立
憲民主党（以下、立憲）と公明党が新

青山大人 (あおやま やまと)

1979年1月24日茨城県土浦市生まれ。
土浦一高卒。慶大経卒。2006年、茨城県議
選当選(その後2期務める)。衆院選当選3回。
衆議院文部科学委員会理事、立憲民主党青年
局長など務める。中小企業経営者。二児(8
歳と6歳)の父。



落選後も、これまでと同様に、毎日地元の駅頭に立つ青山氏。選挙後は、激励や握手を求められる方が増えたとのこと。

党を結成することを複数のメディアが報じました。1月16日に、正式に、中道改革連合（以下、中道）が発足します。——立憲の議員の皆さんも、新党の結成については全く聞かされていなかったのですか？

青山 全くなかったです。1月15日に、立憲の両院議員総会がありました。新

党結成が既定路線のアリバイ作りの場のようなでした。

その総会で、立憲民主党の衆議院議員は、1月20日までに全員離党して、中道で出馬するか、無所属で出るか、2つに1つを決めなければいけないと告げられました。16、17、18日と非常に悩みました。

——中道が結成されるという話を、どのように受け止められましたか？

青山 正直に言えば、「あり得ない」と思いました。2017年、小池百合子さんが作った希望の党に当時の民進党が後から加わって失敗、2021年、共産党と選挙協力し、「立憲共産党」と揶揄され失敗しました。今回は「またか」という思いでしたね。

——そこから、無所属での出馬を決意するまでどのようなことを考えましたか？

青山 選挙間近になって、党の名前を壊して、新党を立ち上げることが、有権者の皆さんにどう映るのか、有権者の皆さんは本当にこれを求めているのか、そして、何より自分自身がこういう政治をやりたいのかと自問しました。

2017年に初当選させてもらってから、選挙毎に約10万票の付託を受けて、皆さんの代表として国会に送り出してもらいました。この議席は自分の物でもなんでもありません。そう考えた時、「ここで中道に入るの違う」と思いました。

立憲がどんなに逆風に立たされていようとも、野党第一党として148の